

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和6年2月26日

公表: 令和6年2月29日

事業所名 児童発達支援らじわん

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		子供さんの個性やコンディション、感染状況等に応じて、1階と2階の使い分けを行っています。	様々な状況に応じて、各部屋の特徴を活かし、活動の幅・対人交流の場を広げられるようにとり組んで参ります。
	2 職員の配置数は適切である		7	各専門職を配置し、様々な側面・視点から支援できるよう工夫しております。	さらに色々な特技や情熱を持った職員の増員を検討しております。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		一軒家を使用しているため、すべてがバリアフリーではありません。あえてその段差を、バリアフリーにし、リハビリの一環として活用しています。	気づいた・感じた点は、その都度改善するようしております。お子様達にとって、より分かりやすい・安心して活動できる場になっているか、定期的に振り返りながらとり組んで参ります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		施設内や遊具、おもちゃ等、毎日の清掃・消毒や空間除菌等、感染症対策を綿密に行っております。また、ご利用されるお子さんの個性を引き出せるような遊具等を配置、活用できるよう心がけております。	近年、新型コロナウイルス・インフルエンザ・溶連菌・胃腸炎等、様々な感染症が猛威を振っている現状です。職員一丸となって感染症対策の徹底を図っていきます。また、利用されるお子様や職員の健康管理にも配慮していますので、今後も継続していきたいと思っております。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		都度話し合いを実施し、個々にあった目標・関わり・振り返り等に心がけています。	PDCAサイクルを考慮した関わりが可能となっております。現状に満足せず、とり組んで参ります。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		アンケートやご意見箱等により、意向確認を行っており、今年度頂いたご意見より課題を抽出し、業務改善につなげていきます。	まだ解決できていない点も多々ありますが、一度に全てを解決できません。今年度見えた課題を、来年度中には優先順位をつけて一つでも多く解決できるように取り組んで参ります。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		毎年評価を実施し、ホームページ上で公開して参ります。	お子様の特性に合わせ、一元的でない多様な関りを心がけております。ただ、支援の質に関しては、これで十分ということはありませんと考えておりますので、都度振り返りを行いながら、その内容をホームページ上で公表していきます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7	現段階では未実施です。	法制度や周囲の事業所の様子もながいながら、必要に応じて第三者評価の活用も検討していきたいと思っております。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		内部研修のみならず、Zoomで参加可能な外部研修等を実施しました。時に、日々の療育の中で、実際の支援の方法も共有してきました。	感染症の状況を見ながら、職員の知識・技術・経験に合わせ、内外部の研修等への参加を調整していきます。隙間時間を有効に活用できるよう取り組んで参ります。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		相談支援専門員、園や医療機関等との連携を図り、お子さんや保護者様との情報交換を通して得られたニーズを分析し、計画の作成を行っています。	様々な情報を基に、お子さんの主な課題に対する支援を保護者の皆様と一緒に考えていきます。また、生活スタイルも変化していきますので、その点も踏まえながらの計画作成となるよう継続して取り組んで参ります。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	4	事業所内で統一したアセスメントツールを活用しています。一部、外部期間で実施されたアセスメント結果を共有させて頂いております。	アセスメントツールは、職種間で異なるため、何を統一のツールとして用いるか難しい課題です。まずは現在の書式を見直し・修正しながら、使用を継続し、職員の共通理解を深めていきたいと考えております。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		ガイドラインに示してある項目を参考にして実施しております。	「ガイドライン」に基づく考え方や具体的な支援の方法等についてとり組んでおります。より具体的な支援内容を設定していきたいと思っております。また、それぞれのライフプランによって設定される支援内容が変化すると考えていますので、その点も踏まえつつ取り組んで参ります。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		計画に沿った支援を実施しております。	その日の様子を見ながら、活動内容や質を、さらに高められるようとり組んでいきます。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	専門性や個々の経験を発揮しつつ、チームとしてプログラムを立案しております。	より総合的に・統一感のある関わりができるよう、士気を高めていきたいと思っております。
15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		子供さんの変化を見ながら、柔軟にプログラムを展開できるよう努めております。	遊具やおもちゃなどを増やす、環境調整を図るなど、活動のバリエーションや幅を持たせることができるよう対応していきます。	

16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	お子さんの状況に応じて、個別・集団活動を組み合わせた計画を作成しております。	もう少し、いろいろな活動を展開できるよう取り組んでいきたいと思ひます。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	基本的には朝の打ち合わせで情報を共有できるよう心がけています。	朝の打ち合わせや職員ノートを活用したり、重要事項はここへ確実に伝える等、情報共有に努めて参ります。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	支援終了後、職員間で話し合い、気づいた点、気になる点を共有しています。	毎日のミーティングや職員ノートを活用するなど、より効率的に情報共有できるよう、工夫して参ります。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	日々の支援に関する記録を徹底し、全職員が必ず目を通すようにしています。	分かりやすい文章表現の工夫など、短時間で内容の濃い記録を目指して取り組んで参ります。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	定期的にモニタリングを実施し、必要に応じて計画の見直しを行っております。	漏れのないよう、ソフトを活用しつつ、時期や機関の把握等を徹底していきたいと思ひます。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		会議開催の依頼があった際には、状況をしっかりと把握しているスタッフが参加しています。どうしても参加が難しい際は、スタッフ間で情報を共有しつつ、代表となった者が参加するようにしています。	スタッフ数が充足した際には、担当制を導入し、会議には可能な限り主担当者が出席していけるようにしていきたいと思っています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1	主治医からの指示を始め、各関係機関の方々と連携しながら、支援させて頂いております。	上記と同様に、まだまだ連携の不足感を痛感しております。より密に連携できるよう努めて参ります。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	1	電話・メール・訪問・文書等の手段を活用しながら、主治医等と連携し、支援させて頂いております。	上記と同様に、まだまだ連携の不足感を感じておりますので、より密に連絡をとれるよう体制づくりを検討していきたいと思っています。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6	1	電話・メール・訪問・文書等の手段を活用しながら、主治医等と連携し、支援させて頂いております。	上記と同様に、まだまだ連携の不足感を感じておりますので、より密に連絡をとれるよう体制づくりを検討していきたいと思っています。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	4	移行支援の経験は少ない状況です。	今後、より一層の連携を深めていくことができるよう、働きかけていきたいと思っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		7	まだ、未経験です。	機会があれば、情報共有等を実施していきたいと思っています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	経験は少ないですが、ZOOMを活用しながら対応しております。	機会があれば、さらなる助言や研修を実施していきたいと思っています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		7	感染症のリスクが高いお子様が多いので、現時点では積極的な交流は考えておりません。	保護者様の強い意向やご理解があれば、今後検討していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		7	現時点では未経験です。	機会があれば、参加していきたいと思っています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		送迎時や連絡帳の報告や、活動時の写真等を活用し、子供さんの状況や課題等についての相互理解を深めています。	もっとじっくりと話し合う機会を設けていきたいと感じております。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		7	お子さんに合わせた関わり方等の提案・助言をさせて頂いております。	まだまだ不十分と感じていますし、満足することはない点かと思っています。相談会や面談、参観日の開催等、検討して参ります。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に、説明させていただくとともに、いつでも閲覧できるよう準備しております。	限りのある時間の中ではございますが、継続して、わかりやすい説明を心掛けて参ります。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		計画に基づきながら内容を説明し、保護者様より同意を得ています。	上記と同様です。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		不安や悩み等に対し、臨機応変に対応させて頂いております。また、保護者様が話しやすいスタッフを選んで対応させて頂いております。	都度、対応させて頂いております。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7		仕事を持っている保護者様は特に父母の会の結成を望まない方や負担に感じる方が多くいらっしゃいますので、状況を見ながら対応していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している		7	契約時に、相談・苦情対応窓口を説明しております。また、マニュアルを整備し、対応できるようにしております。都度相談に応じることができるよう心がけております。	今後も継続し、都度、電話や面談などを実施していきます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		7	会報は発行していません。連絡体制については、契約時に説明させて頂いております。	現在の業務時間の中で、会報を作成する時間を捻出するのが難しいのが現実です。その時間は、お子様の支援に使用したり、ミーティングや研修に使用しています。今後は、そのバランスを見ながら進めていきたいと思っています。

38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	契約時に、保護者様へは個人情報の取扱いについて説明し、同意して頂いております。また、スタッフ個々人が外部へ持ち出さないよう取り決め等をしております。	個人情報の取扱いには注意をしつつ、外部の意見も頂きながら、適切な取り扱いに留意していきます。
39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	お子さんや保護者様に合わせた、意志疎通しやすい方法を検討し、介入しております。	少しずつではありますが、ツールが増えてきたように感じております。今後も様々なツールを検討・導入していきたいと思っております。今後は、SNS等の活用も検討していきます。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	ケア児さんも多いため、感染症も考慮すると、地域の皆様を招待する行事等は計画できておりません。	様子を見つつ、声掛けだけでも行っていけるようにしたいと思っております。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	都度、訓練を実施しております。マニュアル等は膨大になるので周知は不十分と感じています。	マニュアルはありますが、職員全員でじっくりと確認する時間を持ちにくいのが現状です。各種マニュアルを見直しつつ、打合せ時や研修を通して、職員への周知徹底を図っていきます。また、保護者様への簡易版の作成・配布を検討していきたいと思います。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	最低でも半年に1回、お子さん達と一緒に、避難訓練を行っております。	感染症対策を徹底しつつ、継続して実施していきたいと思います。また、想定している災害を増やし、対応できるように準備を進めたいと思います。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	事前に、服薬状況等を把握し、看護師を中心に対応させて頂いております。保管中のお薬の使用期限も確認しております。また、必要に応じて、主治医より指示書を頂くようにしています。	お薬の変更がないかなど、こちら側からも積極的にお声がけしていきたいと思います。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	アセスメント等で、保護者様より教えて頂いております。一覧表作成、ダブルチェックなども行い、ミスのないよう対応しております。	その内容を厳守し、対応させて頂いておりますが、医師の指示となると、不明なお子様もいるため、確実にしていくためにも確認を徹底するようにしていきたいと思います。必要に応じて、軽食の製作メーカーに連絡し、内容を確認するようにしております。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	ヒヤリハット事例集はあり、事業所内で共有し再発防止に努めておりますし。	なぜ生じたのか、繰り返さないためにどうするかなど、全職員で情報を共有し意見交換していきたいと思います。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	虐待に対する研修会参加を図っております。また、情報番組などの報道内容なども共有し、随時学びを深めています。また、実際の事例等も含め、学びを深めております。	マニュアルを見直し、打合せ時や研修を通して、スタッフへの周知徹底を図っていきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	身体拘束排除についての研修は実施しております。これまで、身体拘束は行っておりません。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。